

**東久留米市まち・ひと・しごと創生推進懇談会**  
**子ども・子育て会議部会にていただいたご意見の概要**

■開催概要

【開催日時】	2016年1月8日(水) 19:00~21:00
【場所】	東久留米市役所
【出席者】	委員：水越、斎藤(利)、斎藤(京) 部会委員：坂入、武田、菅原、向山、柘植 事務局：佐々木、森山、他2名 オブザーバー：株式会社ぎょうせい 1名

■ご意見の概要

【各委員からの意見】

委員)

- ◇ 「にぎわいと活力あふれるまちをつくる」は、現状では産業に関する活力という意味で「にぎわい」が書かれているが、子どもや高齢者など「人が関わるにぎわうまちづくり」という視点も入れてほしかった。子どもたちや高齢者が本当の意味でにぎわうとはどういうことなのかは重要ではないだろうか。
- ◇ 「子どもの未来と文化をはぐくむまちをつくる」では、児童期で終わるのではなく青年期(中学生、高校生)も含めた支援や環境設定に是非取り組んでほしい。緑や水辺もあり魅力ある市だと思うが、では子どもたちが中学生、高校生、大学、就職期というタイミングになったときに、どのような魅力があるのか。例えば、ローラースケート場やバスケットボール場など遊べる公園を設置することで、中学生、高校生のときにこんな風に過ごしていたというのが子どもたちの記憶に残れば、将来、結婚や子育てを東久留米市でしたいと思うことにもつながるだろう。
- ◇ 国の目標に「安定した雇用」「若者の結婚・出産・子育て期の希望をかなえる」とあり、雇用を生むのは重要ではあるが、そこでの働き方の環境を整えることも重要である。特に、労働条件で融通が利きにくい保育園、幼稚園、学童保育などの労働条件は住みやすさに大きく影響する。そこを整えることで若者の希望を叶えるということにつながると思うが、残念ながら東久留米市では、学童保育は19時までやられていない現実がある。本当の意味で住みやすいまちにするためには、保育園、幼稚園、学童保育の利用料や利用時間の見直しは大きいだろう。
- ◇ また、おもちゃなどの物的環境については、単に良いおもちゃがあっても子どもは遊ばない。間にいる保育士がそのおもちゃの魅力をいかに伝えていくかが重要である。そのため、人的環境が重要である。人がどのようにつながり、にぎわいを出せるかが一番重要ではないか。
- ◇ 地域ブランドについては、道の駅のようなものがつくれないのだろうか。遊び場があり、地場産野菜が売られているような場所が1か所に集まったところがあれば、特徴が出せるのではないか。

- ◇ 東久留米市の都市計画道路は、ベビーカーが通るにはあまり安全とは言えない。人が生活で使う道が本当に安心安全なのかを考えるべきだろう。

委員)

- ◇ 少子化なので、子どもへの支援策は重要だろう。ひきこもりの問題や最初の就職で失敗しドロップアウトしてしまう子など、子どもに関する問題が多くある。「学力の育成」とあるが、学力だけでなく生きていく力を養うべきではないか。ライフスキルという点を基盤としてつくっていくべきだろう。
- ◇ 健康増進は重要であり、健診自体を否定するつもりはないが、健診したから健康づくりしているかは疑問である。ポイント制度については、商工とからめたいのだろうが、本当の意味で健康寿命にかかってくるのは所得である。市は啓発的な役割となり、実施主体はNPOや企業など多様であるべきだろうと思う。

委員)

- ◇ ポイント制度については、国のマイナンバーにポイントをつけるかどうかと同じで、ポイントをつければよいというものではなく、むしろアウトリーチしていかないと本当の意味で孤独死等の解決にはならないだろう。
- ◇ 学力を伸ばすというのは、学力で頭の良い子を伸ばすのが本当に良いことなのだろうか。また、土曜塾や放課後子供教室などと書かれているが、教える方はどうなのかということも含めてもう少し議論されてもよいではないか。

委員)

- ◇ データからどのような施策につながっているのかが重要ではないか。
- ◇ データをみると、年少人口と生産年齢人口が減少している。高齢者の死亡率が高い。人口増加に重要な35歳までの女性の未婚率が増えている。社会増減では、若い人が転出も転入も多い。産業人口では、サービス業が中心となっている。
- ◇ これらのデータから、具体的な戦略にどのように落とし込んでいるのかはわからないが、30歳以上の人が働ける場所を確保し、高齢者にとっては安心安全で住み続けられる環境を整え、まちづくり全体としては犯罪が起こらないことや市民の公共施設等へのアクセスがしやすく安心して利用できているかどうか、人口増加のポイントになるのではないかと考える。
- ◇ それらを実現するうえで、財政問題が重要になるが、交付金だけでなく市として財政を増やすためにはどうすべきかを考えたうえで施策を出していくべきではないか。
- ◇ また、本件はまち・ひと・しごと創生なので、「創生」がひとつのテーマであろう。現状の戦略は、既存の施策で構成されているようだが、既存のものを議論する一方で、人口増加に向けた新たな施策についても分けて検討するべきではないか。

委員)

- ◇ 人口ビジョンの社会増減については、ほとんど埼玉県の転入・転出が多い。施策を打ち出す際は、網羅的に抑えないといけないが、選択と集中が必要だと感じる。

委員)

- ◇ 総合戦略自体がつぎはぎのため、他市と比べる視点は必要であり、そのためにはメリハリをつけながら、優先的に行うことが何かをアピールすべきだろう。子育て関連の施策は、東久留米市は進んでいるのだろうか。

委員)

- ◇ 東久留米市の子育て施策は、他市と比べてもあまり変わりはないだろう。待機児童、職員の問題はどこも背負っている問題である。子育てで大きな問題は人の問題で、特に保育園の非正規職員が増えていること。保育士はいるが、いざ現場をみると非正規職員が多く悲惨な状態というところがある。

委員)

- ◇ 現在、公設民営園に子どもを預けているが、公立保育園よりも職員の入れ替わりが激しく信頼性は低い。待機児童に目が行きがちだが、民設環境を整えることは重要だろう。しかし、東久留米市の子ども会がとても発展しているので、仲間づくりができています。公立保育園もだが、保育園・幼稚園でコミュニティができていて、小学校にあがったときも力になると思う。
- ◇ 仕事をしながら子育てし保育園に預けたりしていると、急にお迎えが必要になったり、学級閉鎖となったときに学童保育はやってくれるが 9 時からしかやっていないなど、ちょっとしたことで働きづらくなる現実がある。
- ◇ 小学校にあがるタイミングはとても大きく、現在 7 時から保育園に預けている人が小学校にあがることで 8 時になるといったときに、その 1 時間どうするのか。あるいは保育園では 20 時まで預けられていたが、小学校にあがることで学童保育が 18 時までしかやっておらず暗い中を子どもが一人で帰らざるを得なくなっている。それが嫌で転職する人や祖母の家の近くに引っ越してしまう人がいる。本来ならば職場環境を整えることがベストだろうが、難しいのであれば、保育園・学童保育の運営時間をどうするのかは非常に重要な課題だろう。

委員)

- ◇ 市の財政は限られているので、市がやらないといけないのは、民間企業への要請と自発的にお金を創り出すことだろう。
- ◇ 総合戦略は、子育てから始まっているが、未婚率が上がっているのに、結婚への対策が抜けていると感じる。現在も行われている街コンや街バルなどを活かしたら、既婚率を上げ子どもの増加につながると思う。
- ◇ 知人にフリースペースでネイルアートを行っている人がいる。地主がその貸しスペースを 1 時間 200 円で貸している。独立してネイルサロンを開くにもお金がかかるが、ここなら 1 時間 200 円で道具さえ持参すればネイルサロンが開けると話していた。フリースペースなので、他にも学生が勉強していたり、お酒を売っているスペースがあったり、3Dプリンターなどの機材も整っている。これは地主が行ってい

るのかもしれないが、例えば、上の原地区でもそのような場所があれば、1時間100円などの使用料を取る場所があればお金を生み出せるのではないか。コミュニティも生まれるだろう。

委員)

- ◇ フルタイムで働いていない母親の割合はどのくらいなのだろうか。フルタイムでない人が住みやすいまちというのもよいのではないかと思う。
- ◇ 起業する人を増やし、短時間でも母親が働ける場所をつくるのは大事だろうと思う。

委員)

- ◇ 専業主婦がフラッと寄れるおしゃれなカフェもない。若い人には、そういうところに行きたくて住むという考え方の人もいる。市内の空き家がどのくらいなのかわからないが、空き家を介護施設にしたり、カフェを開けるようにしたりしてはどうか。
- ◇ 毎年40人ずつ増やすのは無謀かと思うが、もう少しターゲットをしばり進めるべきだろうと思う。

#### 【総合戦略のブラッシュアップに向けて】

事務局)

- 最近、国は1億総活躍をうたっている。「まち・ひと・しごと」では、人口減少という観点から入り施策を作っているが、1億総活躍では、仕事づくりなどの話に移っている。
- 限られたパイの中で、元々の財源を増やすやり方も必要のため、引き続き取り組んでいくとし、一方で、ご指摘のとおりメニューはすべて市の既存施策である。現状の総合戦略からブラッシュアップする場合に、この施策は強化すべき分野である、この点は視点を変えるべきであるといったご意見をいただくとありがたい。

委員)

- ◇ 中野区は23区で最も貧乏な区である。しかし、利便性があつたり多様性があり、様々な人にとって住みやすい場所となっている。学生時代に中野区に住んでいた人が戻ってきた人もいる。個人への助成はしていないが、団体への政策助成にはかなり力をいれていた。
- ◇ その他、町田市では大学連携に力をいれていたり、世田谷区は、おやじの会などお祭りが多く遊びたい人がたくさん戻ってきている。いろんなものを起こせる仕掛けをつくとよいのではないか。

委員)

- ◇ 優先順位をつけ、選択と集中を予算との兼ね合いで検討していく必要があり、まずはここから始めるという政治判断はどこかで必要だろう。

委員)

- ◇ 基本目標が一番重なっているところを優先すべきものではないか。本当にこの場所が良いのかを検証しても良いかもしれない。

委員)

- ◇ 認証保育所は費用が高いため、近隣では補助が出ている。高い利用料でも認可保育所と同じくらいの値段で利用できるようにしている。また、病児保育所も西東京市は複数ある。
- ◇ 繰り返しになるが、保育園・幼稚園と学童保育の終了時間のずれの問題の解消や青年期の支援については、ぜひ進めるべきだろうと思う。
- ◇ 介護世代も増えるだろう。35歳～40代の方は、介護で地元に戻らないといけないという人もいるだろう。それを考えた時に、東久留米市内や近隣にどのくらい介護施設があるのか、あるいは市内に住みながら通えるようにしていくためには何が必要なのかかわからないと、住みやすさにつながらないだろう。

委員)

- ◇ 総合戦略について、どこまでブラッシュアップするのか。

事務局)

- 目標については、総合計画と同じなので抽象的な表現になってしまう。具体的な施策のメニューの部分について、さらに深みを付けて具体的なものにしていきたいと考えている。

委員)

- ◇ 市のアピールに関連することで、流行りのふるさと納税については進んでいるのか。魅力を発信しながら、ふるさと納税での独自確保はやるべきことだろう。

事務局)

- 年度末には実施したいと考えている。

委員)

- ◇ 大きな公園があると良いと思う。駐車場にしてしまうともったいない。